

柏谷の街を明るく安全に

～ 街灯の話 ～

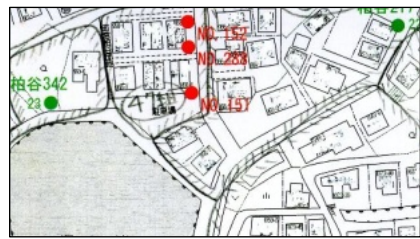
施設営繕委員長
室伏治義

施設営繕ってどんなことをやっているか、皆さんお分かりになりますか？

実際、私も協議委員になるまで分かりませんでした。実は皆さんの身近なことをやっています。やっていることは大きく2つあって、一つは「放送」、もう一つは「街灯」です。ここでは皆さんが夜間、安全に安心して道を歩くことが出来るように明るく照らす街灯（防犯灯とも言いますが今回は街灯と表現します）の管理についてお話します。

もし、街灯が切れていれば、真っ暗な夜道を歩くのはとても怖いものです。自動車での移動が多い方はなかなか実感がないかもしれませんが、そういう方は一度、真っ暗闇の夜道を歩いてみてください。怖さを実感できますよ。

もう少し具体的なお話しをします。組長さんは、組内の街灯が切れているという情報が入ると、施設営繕委員長である私に電話などで連絡をくれます。そこでは「街灯マップ」なるものにとらめっこし、組長さんからの、故障している街灯の電柱番号（例えば、柏



街灯マップ（赤丸は町、緑丸は区管理）

谷1110とか電柱にプレートで表示されています)の情報を基に、その街灯を誰が管理しているかを調査し、その街灯の管理者に修繕をお願いするというルールで運用しています。

ここで街灯管理者について説明します。街灯は管理者により3種類の管理区分になっています。ここでいう管理者とは、設置費用や設置後の電気代、並びに故障した際の費用を負担する者です。

- 1) 函南町管理…これは、子供たちの安全を配慮し小学校や中学校の通学路などに多く設置されており函南町が管理している街灯です。
- 2) 柏谷区管理…これも、公共性が高い公民館や子供たちの通学路などに設置されており、柏谷区が管理している街灯です。
- 3) 組管理…これは、各組の皆さん独自で必要と判断して、組の負担で設置し管理されている街灯です。

実は、先に述べた「街灯マップ」には、函南町管理と
柏谷区管理の街灯は記載されているのですが、組管理

の街灯は記載がありません。柏谷区の全ての街灯を区が把握しているわけではないこと、ご了解ください。街灯は、この様に目的に合わせて設置され、適切に維持管理されながら皆さんの安全を守っています。

次に、私が経験した街灯にまつわるトラブルを少し紹介します。

昨年の暮れも押し詰まった29日の夜9時頃、区長から電話があり、「東中学校そばの街灯が自動車事故で倒れた。速急来てくれ!」とのこと。急に駆けつけると、街灯のポールが倒れていて、東京電力の方が応急処理をしていました。その後、保険の申請の手伝い



交通事故で倒れた街灯



荧光灯



LED

へと修理しました。

今後も区民の皆様や組長さんとの連携で、柏谷区の安全と安心を守っていきたくて考えていますので引き続きご協力をお願いいたします。

最後に、街灯のLED化についてお話しします。柏谷区管理の街灯については、LED化を計画的に進めています。蛍光灯に比べ、長寿命（約40,000時間と蛍光灯の数倍）であり消費電力も抑えられエコなのです（電気代は291円/月（40W・蛍光灯）⇒ 141円/月（10W・LED）と半額）。組管理の街灯についても、小規模事業を活用してのLED化が進んでいます。

これからも、街灯をしっかりと管理して柏谷の街を明るく照らし、安全安心な街にしていきたいと思います。

瑞穂のくにの
ものがたり

日枝神社宮司 泉明寺みずほ

JC・JK流行語大賞というものがあるようだ。(JCは女子中学生、JKは女子高校生)例えば2018年の大賞にランクインしていた言葉の1つに「あげみざわ」がある。どなたの御苗字ですか?と尋ねたくなるが、勿論氏名を表す言葉ではない。(意味は調べていただきたいよ。)



日本語の乱れ、と眉をひそめる向きもあるが、彼女たちの好む用語は実に語呂がよくてコミカル。若い世代のテンポの速い会話に似つかわしい。生き生きとしたエネルギーをぎゅっと詰めたゴムボールが弾んで飛んでいく、そんなイメージがある。一年も経てばセンスが古いと廃れていくらの、瞬発力にこそ価値のある言葉たちがJC・JK流行語である。なお、シニアにも使いやすいような流行語としては「わかりみが深い」をおすすめしたい。「わかりやすい」という意味なのだが、「み」をつけることによって名詞化し活用させている。「悲しみ」は一般的だが、彼女たちはさまざまな感情に「み」を付けて展開させるからおもしろい。「やばみ」「嬉しみ」「つらみ」日本語としておそろく間違ではないものの、しっくりこないが、実はこの「感情+み」は文豪も使っていたりする。夏目漱石の作品『ころろ』の中のくだり。「みんなこの淋しみを味わわなくてはならないでしょう」そしてこの言葉のチョイスにつ

いて「漱石ならではの鋭い語感」というように評価されていたりするのだ。



さて、今回は言葉についてツラツラと書いているが、そもそもなぜ言葉をテーマにしたかというと、頂き物の柿があまりにも美味しかったからである。だから私は「柿食べば鐘が鳴るなり法隆寺」という句を思い出し、言葉使いのセンスやテンポについて想いを馳せる事になったのだ。刹那的な流行語に対して、こちらはしみじみと心に染み込む言葉、俳句である。国語の教科書でいくつか学んだが、俳人がしたための俳句というのは、一瞬にして脳裏にその風景背景を描かせる。自由律俳句の「咳をしても一人」は寒々とした部屋に咳の音が響いた事で孤独に気づく場面を思い浮かべるし「おりとりて はらりとおもき すすきかな」などは冬の田舎道沿いに広がるすすき畑とその長閑さが、今見たばかりの絵画のようにまざまざと眼に浮かぶ。私もこんな句作りに挑戦し、みずほばあさんの作品として子孫に伝えたいが、柿を食べたところで出てくるのはタネぐらいのもの。誠に残念である。この柏谷にも俳句づくりに精を出している方はたくさんおられるだろう。ぜひ教えを請いたい。



ところで先日、新鮮な果物をジュースにして販売しているオシャレなカフェスタンドをみつけた。しかも店員さんはきらきらしい美丈夫。そこで私は呟いた。「イケメンの作ってくれるジュースだなんて、ありがたみが深い…」

感嘆の情が表せたような気がする。

あの頃の柏谷



上の写真は、昭和29年頃に、日枝神社の西側から岐れ道の方向を撮影した写真です。どこまでも畑が続いています。手前の畑は麦畑です。今は住宅が建ち並んでいて、このように遠くの景色まで見える写真はもう撮ることが出来ません。

現在ならば、畑の向こう、写真のほぼ中央に7階建ての函南町役場が見えるはずですが、写真右手にある2階建ての四角い建物は、逋信病院の社宅ということですから、その建物の前を走っている道が、岐れ道から畑毛方面へ続く県道函南停車場反射炉線です。（写真は4組の野田さんから提供していただきました。）

「あげみざわ」…気分の高まりを意味し、テンションが上がった時や嬉しいことが起こった時などに使う

「美丈夫」：美しく、立派な男